

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## 大阪商工信用金庫（証券コード：-）

### 【据置】

長期発行体格付	A-
格付の見通し	安定的
短期発行体格付	J-1

### ■格付事由

- 大阪市に本店を置く資金量約8,000億円の信用金庫。ビジネスチャンスが豊富な大阪市を主要な営業地盤とし、預貸金残高を比較的速いペースで積み上げている。長期発行体格付は、投融資業務で抱えるリスクは小さくないものの、比較的高い収益力や相応の資本充実度が維持されている点などを反映している。引き続き投融資リスクを適切にコントロールしながら、収益力と資本充実度を一段と高めていけるかに注目していく。
- 収益力は比較的高い。高金利の定期預金を中心に調達している一方、ミドルリスク先への貸出を積極的に推進しているため、預貸金利回り差が大きい。また、預貸率が比較的高水準で推移していることもあり、ROA（コア業務純益ベース）は0.7%台と信金平均を大きく上回る。コア業務純益は、長期的に増益基調にある。26/3期上半期は、預金金利の引き上げなどが先行し預貸収支が弱含んでいるため、やや伸び悩んでいるが、変動金利貸出の構成比が高いため、今後は基準金利の引き上げ効果などが期待できる。貸出金や有価証券の残高が増加傾向にあることも考慮すると、コア業務純益は今後も堅調に推移していくとJCRはみている。
- 貸出資産の質に留意するべき点はあるものの、現状、リスクは問題なくコントロールされている。不動産業向けの構成比が高く、大口先への与信集中がみられる。また、要注意先債権が総与信に占める比率が高い。しかし、金融再生法開示債権比率は、審査体制の強化と不良債権の回収に注力してきた結果、26/3期上半期末3.2%まで低下している。足元の与信費用は落ち着いているものの、インフレや金利上昇が進む局面においても、与信費用を抑制していけるか注目していく。
- 市場部門で抱えるリスクはやや大きい。円建債券に関しては、デフレーションを短くコントロールしているため、金利リスクは小さい。投資信託とプライベート・ファンドを合わせた残高は資本対比で大きく、価格変動リスクや流動性リスクを相応に抱えているが、その他有価証券全体で評価益を維持してきている。
- 資本充実度はAレンジの地域金融機関に見合う。リスクアセットの増加率を上回るペースで内部留保の蓄積が進んでいるため、JCRが中核的と評価する調整後の単体コア資本比率は26/3期上半期末で11%台半ばまで上昇し比較的高い水準にある。また、不動産業向けの与信集中リスクなどに対しても相応の損失吸収力を備えている。今後は、バーゼルⅢ最終化の完全実施が段階的に資本水準を押し下げる要素となるが、高い収益力を背景として資本水準は上昇していくとJCRはみている。

（担当）大石 剛・木谷 道哉

### ■格付対象

発行体：大阪商工信用金庫

### 【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	安定的
対象	格付	
短期発行体格付	J-1	

## 格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2026年3月23日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩  
主任格付アナリスト：大石 剛
3. 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2024年10月1日)、「銀行等」(2021年10月1日)として掲載している。
5. 格付関係者：  
(発行体・債務者等) 大阪商工信用金庫
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
  - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
  - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：  
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

## ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

## ■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

## ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

## 株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル